

しんごん

SHINGON

〔特集〕

お寺の行事に参加しよう② お釈迦さまの三大行事 —花まつり、成道会、常楽会—



Vol.
94

真言宗智山派

仏さまに祈り 仏さまと出会う

目次

- 今日の法語 河田雅常……………2
- 智山寺院探訪 三箱山勝行院……………3
- 特集 お寺の行事に参加しよう②……………6
- お大師さまとご信仰 田村宗英……………10
- 教えは伝わる
一真言八祖解説— 別所弘淳……………11
- 図解・仏教ガイド 「マンガでわかる十三仏②」
え・悟東あすか……………12
- ゆーけいの写仏をするよろこび
牧 有恵……………14
- 日本の四季を切り取る十七文字
星野高士……………15
- 総本山の便りをお知らせします……………16
- らせんのなかのブツダガヤ 中嶋亮順……………18
- ごくらくらくご 三遊亭竜楽……………19
- 御詠歌で綴る十善戒の教え
佐々木眞光……………20
- 読者アンケートから・おしらせ・編集後記……………22
- 真言宗智山派出版物のご案内……………23
- 桃山の息吹に触れる 安原成美……………24
- お大師さまカルタ 川崎一洸・三船毅志……………26
- 花に聞く 仏に聞く 佐々木隆元……………28
- 仏教と妖怪 今井秀和……………29
- 私のお大師さま
ビジュアルで読む現代的性霊集 feat.Rieko 内藤理恵子……………30
- ご本尊さまと出会う 小笠原隆浩……………31

- | | |
|---------------|---------|
| ■ 仏教について | ■ 仏教と文化 |
| ■ わたしたちの生活と仏教 | ■ お知らせ |

表紙写真 奈良県上北山村 「光射し込む道」

紀伊半島の東部、奈良県と三重県の境に位置する標高 1695 メートルの大台ヶ原は、山全体が国の特別天然記念物に指定されていて、ハイキング感覚で気軽に散策することができる山だ。夕刻、撮影を終え下山途中、樹梢から差し込む光が帰路を導いてくれた。

目次写真 奈良県上北山村 「大台ヶ原の展望」

大台ヶ原最大のポイントは深さ千メートルの谷底に向かって突き出した岩塊の大蛇ヶ原で、まさに目が眩むほどの絶景である。視界に飛び込んでくる断崖絶壁に、思わず腰を落としての歩行になってしまった。鎖の柵の先端に立つと眼下に大蛇ヶ原、水平線に目をやると紅葉越しに紀州の深い山並み、遥か西の谷には微かに二本の滝筋も見られた。

撮影・解説／山梨勝弘



顕徳

今日の法語「顕徳」

河田雅常 群馬県甘楽町 東學院住職

会話をしているだけで何となくありがたく、明るい心にしてくれる。そんな方にお逢いした経験があります。そのような方は仏さまのような心で日々過ごそうと心掛け、人知れず精進なさっているのだと思います。

お大師さまは、誰もが「大慈悲の心を持ち、仏になれる可能性がある」と説いていらつしやいます。ならば私たちも内なる大慈悲の心にしたがい、言動や精神を正し、徳を顕せる人格を目指すため、積善のくらしをこころがけましょう。

東日本大震災から七年。復興支援として福島県いわき市に観光で訪れた方も多いのではないだろうか。観光スポットを検索すれば巨大レジャー施設や、演歌にも歌われた「塩屋崎灯台」、「吹く風を なこその関と おも



勝行院本堂。昭和37年落成。ご本尊さまは不動明王。通称「中の寺」、下の寺はすぐ近くの惣善寺（浄土宗）。上の寺については詳細不明である。

智山寺院探訪



福島八十八ヶ所霊場 第一番札所

三箱山 勝行院

福島県いわき市

堂などの堂塔に加えて、千体地藏尊、修行大師像、四国八十八ヶ所御砂場、客殿には三涉園と呼ばれる庭園が続いています。「かつては御朱印十石を拝領していましたが、火災や戊辰戦争で焼失後、歴代住職が復興を続け、先

へども 道もせにちる 山桜かな（源義家）の和歌にも詠まれる「勿来の関」などが観光名所として挙がってきます。また、せっかく行くのだから温泉でゆっくりしたいという方には「三箱（佐波古）の湯」と呼ばれ、日本の三古泉として古来より文人墨客の来遊の絶えない「いわき湯本温泉」も名の知られるところでしよう。では、今回訪れた「三箱山法海寺勝行院」というと、平安時代に開創され、七堂伽藍が立ち並ぶ寺院ながらも、観光地として紹介されることは多くありません。

常磐線湯本駅から十分ほど、駅前通りを抜けると三間一戸の壮大な楼門が聳えます。平安時代初期の大同年間（八〇六―八〇九）法相宗の高僧徳一上人によって、湯本宝海（現在地の北西）に創建されるも、湯の岳の土砂流に遭い埋没したといわれます。これを永正十七年（一五二〇）円鏡禪師が現在の地、三函に再建し、今に及んでいます。境内には本堂、釈迦堂、三重塔、鐘楼堂、大師堂、聖徳太子



入母屋、八脚楼門。4体の仁王像が収められている。真言宗智山派元管長、総本山智積院化主第68世宮坂省勝院下ご揮毫の扁額「無量勝行超世間」が掲げられている。

代（勝行院第三十八世 宗親大僧正）の時に漸くここまで整備が進んだんですよ」と、現住職の宗融僧正より説明をいただきました。

楼門を潜るとすぐ右側に釈迦堂、そして正面に豪壮な本堂が見えます。釈迦堂は前述の円鏡禪師が建立するも寛政十年（一七九八）に火災に遭い、文化年間（一八〇四―一七）に幻如和尚が再興したもの。釈迦堂に入ると釈迦如来坐像（県指定重要文化財／像高八五センチ）と等身大の阿難・迦葉の両尊像が脇侍としてお迎えしてくださいます。こちらの釈迦像は両袖先と裳裾を幅広く長く垂れる垂下様式が特徴的で、飛天透かし彫りの光背、台座も中国宋

風をよく表しています。

勝行院のご本尊さまは秘仏の不動明王で、

古文書によれば智証大師円珍（八一四—八九二）

の御作と記され、平藩内藤公の寄進によると

なっており、節分には多くの御札がご祈禱さ

れます。ご本尊さまをお祀りする中の間の左

右には聖観音、十一面観音が祀られており、

それぞれお勤めをする壇が設けてあります。

毎朝仏さまにお膳を供え、午前六時からご住

職と役僧の方でお勤めをされるそうので、お香

を焚いていなくても堂内からその香りが立ち

のぼり、仏具には修法の足跡ともいえる使い

込まれたくすみが刻まれています。祈りの力

が満ち満ちているようで自然と手が合わさり
ます。

本堂の左奥の石段を三重塔に向かって登っ

ていく途中に鐘楼堂があります。この鐘は

「しあわせの鐘」と銘打たれ、先代の宗親大僧

正が世界、そして宇宙のすべてが幸せになる

ように、との願いを込めて建てられたものだ

そうです。

鐘楼堂から本堂を眺めると入母屋屋根の造

作がよく見てとれます（P.5 右上写真）。

長く立派な降棟、切妻部分の三ツ花懸魚に

板墓股まで意匠を凝らした彫刻になっていま

す。余談ではありますが、切妻の合掌部（三角

形の頂点）を「拝」、ここに垂れ下げた装飾的

彫刻を「懸

魚」といま

す。唐招提寺

金堂や東大寺

大仏殿の鴟尾

も火除けのま

じないといわ

れています

が、魚が屋根

にいます、つ

まり魚が水

中では火事

が起きない、

という願いが込



（上）幻如和尚が再興した釈迦堂。勝行院が戊辰の役で焼失したためこの釈迦堂を移し、一時勝行院の本堂とした。お堂の左側には幻如和尚の供養塔があり、毎年12月19日の幻如忌に供養会が行われる。

（下）【中央】釈迦如来像は寄木造りの漆箔。面貌は鼻すじがとおり、口元は引き締まる。迦葉【右】阿難【左】の両像はいわき市指定有形文化財。天井には薄れてはいるが龍が描かれている。



本堂内陣には技巧を凝らした仏具が並ぶ。水銀めっきを施し、魚々子鑿で細粒の円形を密に陰刻して仕上げた逸品。魚子打工の歴史は古く、天平宝字4年（760年）の文献が初出である。

められているのです。それが懸けられている場所が拝というのは建築の妙を感じます。
三重塔は昭和六十三年竣工、総高十四メートル、胎蔵界五仏が入仏されています。完工から三十年が経過し、白木の木材も落ち着い



三重塔内の胎蔵界五仏。如来に内在する理徳を示す。【中央】胎蔵界大日如来【右前】宝幢如来【左前】開敷華王如来【左奥】無量寿如来【右奥】天鼓雷音如来



勝行院本堂の屋根、切妻部分の彫刻。本文にあるように意匠を凝らした造りになっている。



山内清規。清規とは修行僧が守るべき生活規則。先代宗親大僧正の御手彫り。

が、ここまで徹底されているお寺は多くないでしょう。ご住職の「役割は皆、自分のお寺との兼業に就いても、一般職に就いたら仏さまに仕えて、仏飯をいただくという意識が薄くなりそうです。で

た雰囲気になっており、優美端嚴（ゆうびたんげん）という言葉が浮かびます。そして金色の五仏は塔を守る本尊として相應（そうごん）しい莊嚴（そうごん）さを示しています。頭を垂れ、手を合わせずにはいられなくなるその尊容は、真言教主たる光明遍照（こうみょうへんしやう）の仏徳の顕現（けんげん）だと感じさせられます。

境内の取材を終え、改めてご住職にお話をうかがいました。現在四名の役僧の方がお勤めされていますが、ご住職自ら指導する機会は少ないそうです。「上役が教えるのが常だけれども、下は上役の仕事を盗んでいくものだと思います。でも何回も同じ失敗を繰り返すと……」との言葉に役僧さんも苦笑いです。「よくやってくれますよ」とおっしゃるとおり、掃除の行き届いた境内は砂利まできれいに整えられています。僧侶の「いろは」として、一番に作務（さむ）（掃除）が挙げられます



ACCESS アクセス

三箱山 勝行院
〒972-8321 福島県いわき市常磐湯本町三函303
電話 0246-43-2576
JR常磐線湯本駅より徒歩10分

きるだけ仏さまの近くにいてもらいたいんです」との言葉は行き届いているようです。

楼門を出てふと目線を上げると「無量の勝行、世間を超えたり」と書かれた扁額（へんがく）に気づきました。勝行は「聖教（せいぎょう）」または「正行（しょうぎょう）」なのでしょうが、行い（実践）に勝るものはない、そう諭（さと）されてお寺を後にしました。

（文／智山教化センター所員・島玄隆 写真／清水健）



勝行院第39世住職 楠宗融僧正

福島第一教区長として宗団を支えながら、後進の育成にも力を注いでおられます。



桜が満開の4月8日。お釈迦さまのご生誕をお祝する「花まつり」で賑わうお寺の様子。お釈迦さまの母摩耶夫人は「右のわき腹に白象が入る夢を見てお釈迦さまを身ごもった」という伝説から、境内に花御堂を乗せた白象が飾られています。

特集

お寺の行事に参加しよう② お釈迦さまの三大行事

—花まつり、成道会、常楽会—

「人生とは苦である」

仏教のいう「苦」とは「思い通りにならないこと」を意味します。苦に満ちたこの世において、人間はどう生きるべきか。お釈迦さまはその答えを求め修行に入り、悟りを開かれます。そして「苦」を完全に解決した安楽の境地「涅槃」に至ります。お釈迦さまは苦の世から解脱する道を示されました。仏教とは、人々が真に幸せに生きるための教えなのです。そのお釈迦さまに由来する三大行事があります。各寺院で開催される行事は、お釈迦さまのご生涯と密接に関わってきます。

お釈迦さまの三大行事

- | | | |
|--------|-------|-----|
| ① 花まつり | 四月八日 | ご生誕 |
| ② 成道会 | 十二月八日 | お悟り |
| ③ 常楽会 | 二月十五日 | ご入滅 |

またお釈迦さまのご生涯には、特筆すべき八つの事柄があり、これを「八相成道」といいます。

- | | | | |
|-------|------|--------|------|
| ① 降兜率 | ② 托胎 | ③ 降誕 | ④ 出家 |
| ⑤ 降魔 | ⑥ 成道 | ⑦ 初転法輪 | ⑧ 入滅 |

では三大行事とこれらの関わりをみていきましょう。

※行事の日程は寺院により異なる場合があります。

①花まつり 四月八日

お釈迦さまはこの世に生まれてくる前、兜率天^{とくすてん}という世界で修行されていた。そこから六本の牙がある白象にまたがり光明を放ちながらこの世へと降りてまいりました（降兜率^{かどうすう}）。お釈迦さまの母である摩耶夫人^{まやふじん}は、白象が右脇から胎内に入る夢を見て身ごもったとされます（托胎^{たくたい}）。

その後、摩耶夫人が出産のために故郷へ帰る途中のルンビニー園で無憂樹^{むゆうじゆ}という木の枝に触れたとき、右脇からお釈迦さまが誕生します（降誕^{かうたん}）。直後に東西南北の四方に七歩ずつ歩き、右手で天を、左手で地を指し「天上天下唯我独尊^{てんじょうてんかぜいがどくそん}」と宣言されました。すると、お釈迦さまの誕生を喜び、四天王・帝釈天^{たいしやくてん}・梵天^{ぼんてん}が現れてお釈迦さまに侍し^じ、二龍王が清浄の温水と凉水をお釈迦さまに灌^{そそ}いだと伝えられています。また、この浄水は「甘露の法雨^{ほうう}」ともいいます。

これらの伝説から、花まつりは花御堂^{はなみどう}を設置し、お生まれになった時の姿である誕生仏^{たんにしやぶつ}に甘茶を灌ぎます。なお、ルンビニー園は美しい花園であったこと、四月はさまざまな花が咲き誇る季節であることから「花まつり」と呼ばれ、お釈迦さまのご誕生を祝い、健康を祈る季節の行事として親しまれています。



花まつりでは、誕生仏^{たんにしやぶつ}を花御堂^{はなみどう}にお祀りし、甘茶をかけて供養します。經典には、誕生仏^{こうすい}に香水を灌ぎ清める功德^{くどく}により、自分自身の垢を流し、現世では無病長寿^{むびやうちやうじゆ}、家族も安穩^{あんのん}に生きることができると説かれています。

②成道会 十二月八日

お釈迦さまは王家に生まれ、何不自由なく育ちましたが、人生に対して深い悩みがありました。「いくら物で満たされていても、人は必ず年老い、病気になる、最後には死を迎える。このことから誰も逃れることはできない」。そう感じたお釈迦さまは、解決の道



成道とは、修行の完成のことであり、お釈迦さまが仏陀となられたことを意味します。写真は、お釈迦さまが数多くの悪魔の誘惑を退けて成道する様子を表した降魔成道図

写真提供 / 川崎大師平間寺

を求めて二十九歳の時に修行に入ります（出家）。

その後、六年間にわたりさまざまな苦行をおこないますが、苦行では真の悟りは得られないと見切り、後に菩提樹と呼ばれる木の下で瞑想に入ります。悟りに近いことに気づいた悪魔があらゆる手段で妨害しますが、お釈

迦さまは強い意志によって悪魔を退け（降魔）、悟りを開きました（成道）。この日が十二月八日といわれます。

当初、お釈迦さまは悟った喜びを自分の楽しみとされ、説法することなくこの世を去ろうとしましたが、梵天（インドの最高神）がお釈迦さまの前に現れ、人々に説法をすること

を懇願されます。そこでお釈迦さまは説法することを決意し、はじめにかつて修行をとにした五人の仲間に加えを説かれました（初転法輪）。「成道会」では、お釈迦さまが悟りを開かれたことをお祝いし、教えを説かれたことで多くの人々が救われたことに深い感謝を捧げます。



釈迦涅槃図 沙羅双樹の下、北枕で西を向いて亡くなられ（入滅）、そのことを菩薩、仏弟子、天部をはじめ、あらゆる動物たちが嘆き悲しんでいます。あまりの悲しみに沙羅双樹の4本が枯れている様子もわかります。

智積院蔵



2月15日、総本山智積院では、上写真の釈迦涅槃図をお祀りし、常楽会を勤修しています。そこでお唱えされる声明は、鎌倉時代の響きを今に伝えるものといわれています。

第2回 智積院写真コンテスト作品募集

智積院境内で撮影された
作品を募集します
みなさまのご応募
お待ちしております

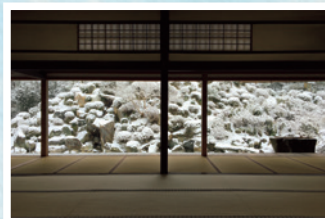
☆応募テーマ 智積院の四季
～写しとる心の風景～

☆撮影、応募期間

平成30年9月1日～平成31年2月28日

※詳しくは総本山智積院ホームページ「第2回智積院写真コンテスト開催のお知らせ」をご覧ください。

<http://www.chisan.or.jp/info/kontesuto02>



京都 総本山智積院

〒605-0951 京都市東山区東大路七条下ル東瓦町964
TEL: 075-541-5361 FAX: 075-541-5364

宿坊

智積院会館

宿泊料金 6,670円

(朝食・灯明料・税込)

ご予約・お問い合わせ

TEL 075-541-5363

・JR京都駅よりバス約10分

・京阪電車七条駅より徒歩約10分

※智積院会館新築工事のため、

平成30年12月13日(木)より

宿泊利用並びに館内利用を休止いたします。

※工事中はご不便をおかけいたします

が、あらかじめご了承ください。

写経のついで

毎月21日 13時より

於 金堂

納経料 千円

智積院阿字観会

毎月12日 14時より(受付13時より)

※8月と12月は8日 14時より

於 智積院金堂地下ホール

(参加灯明料五百円・要事前申込)

東京 総本山智積院別院 真福寺

〒105-0002 東京都港区愛宕1-3-8
TEL: 03-3431-1081 FAX: 03-3431-0203

愛宕薬師ご縁日(毎月8日)

※8日が土日祝の際は第一金曜日

・大護摩供法要 12時より

・写経会(納経料千円) 14時より

※初めて写経に参加される方は13時30分までに受付にお越しください

9月7日(金)

10月5日(金)

11月8日(木)

やすらぎ寄席

毎月第3木曜日 18時30分より

於 本堂(木戸銭千五百円)

9月20日 三遊亭

10月18日 談志一門会

11月15日 三遊亭

真福寺阿字観会

昼の部15時・夜の部19時より

於 本堂(無料・要事前申込)

※10月より夜の部開始時間が18時に変更となります。

9月25日(火) 10月23日(火)

11月27日(火)

愛宕薬師フォーラム(無料)

9月28日(金) 14時より

「手を合わせると」

京都府立医科大学名誉教授／

棚次 正和先生

総本山智積院HP



Facebook



智積院

検索